



青少年赤十字だより 第35号

JRCとやま

大切にしてきたこと

「気づき、考え、実行する」



富山県青少年赤十字指導者協議会

会長 高 信 智加子

(射水市立射北中学校長)

二十六年前、射北中学校に初めて勤務したとき、JRC入団式を生徒総会と同じように生徒の力で自立的に行っていることにとても驚きました。自分がJRC委員会の担当になったこともあり、リハールサル確認のために体育館に行くと、委員会の生徒が手書きした模造紙の「ちかい」は大きな板に貼られ、ロープで吊るされていました。現在のようにプレゼンテーションソフトでスクリーンに映し出すことができなかった時代です。生徒がもつ両端のロープを息を合わせてまっすぐに吊り上げるタイミングを何度も確認し、練習していました。それまであまりJRC活動が盛んとは言えない学校に勤務していた私は、恥ずかしいことにJRC

入団式があることや「ちかい」も全く知らない有様でした。アンリー・デュナンの紹介や態度目標「気づき、考え、実行する」について詳しく説明していた当時の生徒の凛とした姿は、今でも鮮明に覚えています。また、委員会の活動として、地元にある特別養護老人ホームにシーツ交換や慰問に毎月足を運び、入所しておられる方々がその日を楽しみにしてくださっていたことも思い出されます。

現在、本校では、体育館前面に「ちかい」が掲げられています。四半世紀の時を経て、さらにコロナ禍による様々な行事の見直しや削減が行われる中、四月にはJRC入団式を行い、「気づき、考え、実行する」とは、具

体的にどうということなのか、新入生に理解してもらえよう寸劇やクイズを交えて説明しています。特別養護老人ホームへの慰問は、ボランティア部が活動の中心に据え、定期的に継続しています。今期、JRC委員会は、K（気づき）K（考え）J（実行する）大作戦と称して、生徒が自ら目標を設定し実践していく活動を行いました。「ごみが落ちていたら拾う」「困っている人がいたら声をかける」など日常生活の中で自分は何ができるかを考え、地道に実践しています。雪の多かった今年は、早くに登校してきた生徒が一人二人と除雪作業に加わってくれました。生徒の自発的で温かな行動に、救われる思いがしました。

そして、救命救急法、防災セミナーKAGの実施、全国中学校ヨット選手権大会への救護班の派遣等、日本赤十字社富山県支部の方々にもたくさんのご支援をいただきました。

終わりにりましたが、本年度、青少年赤十字活動に対しご支援、ご協力いただきました富山県教育委員会、青少年赤十字賛助奉仕団をはじめ、関係各位に心より感謝申し上げます。今後一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

青少年赤十字活動研究会

1月20日(火)、富山県総合教育センターにおいて、「令和7年度青少年赤十字活動研究会」を県教育委員会と共催で開催し、県内の小・中・高等学校教員等45名が参加しました。ここに、当日の講演及び実践発表の概要をお伝えします。

第1部：講演

「人道や平和の意味に気づき、

自分にできることを考え、実行する」

～赤十字の人道支援活動と青少年赤十字～

日本赤十字社ボランティア活動推進室長

森 正尚

日本赤十字社ボランティア活動推進室の森正尚と申します、よろしくお願ひします。今日は赤十字が本分とする人道支援活動と青少年赤十字がどう結びついてくるのか、児童生徒にお話をする先生方が、どう普段の学校教育の中でこの赤十字の人道支援、人道、青少年赤十字に触れてもらえるか、少しでもお示しできればと考えています。

世界の赤十字の総体を国際赤十字赤新月運動と言います。運動とはムーブメントです。ムーブメントとは同じ理想や目的を分かち合う人々の集団、また目的を達するために活動することです。赤十字は全世界で人道を達成したいと願っています。しかし人道とは一体何でしょうか。

赤十字の人道

赤十字は人道を4つの意味に分けて定義しています。まずは人道とは①人の命を守ること、これが出発点です。①を前提に②人の健康を守ること、当然これに逆はないですね。人の命も守れないの

に健康を守ることはおかしいですね。①と②が守られている上で③苦痛を軽減し予防をする。そして④人間の尊厳を守る。尊厳、人間が人間らしく生きていける、そんな世界・社会をつくりたい。このようにご理解ください。

人として当たり前のことですね。ではなぜ赤十字はこんな当たり前を理念に掲げているのか。赤十字は究極的にはこの地球上で人道を達成することによって「平和」であることを求めています。でも本当にそれが実現可能なのでしょうか。今の世界の状況を見たら、…と思ってしまう。

赤十字はアンリ・デュナンが敵味方の区別なく困っている人を助けたいと思った時から約160年が経過しています。彼の思いが世界中の共感を呼んで大きな組織に発展し、その間のあらゆる戦争・紛争・自然災害・人々が困っている現場には必ず赤十字がそこにいました。

海外の救援の現場で私たちが最初に見ることは、そこで嘆き悲しみ苦しんでいる人達の表情、不幸のどん底で苦しんでいる人達をまず目の当たりにします。その人たちに少しでも元の生活に戻ってもらえる手助けは何かを考え現場で活動します。



つまり私たちは実現可能かわからない大きな理想・理念を抱きつつも、世界の現実をどこの誰よりもよくわかつている自負があります。理想と現実のギャップの大きさを理解していくために、自分の立ち位置をきちんと定めて、そこから向

かうべきところを見据えながら一步一步積み上げていき、今私が、あなたが、みんなで、できることを一つ一つ積み重ねながら活動をやっていく。それが本来の赤十字の人道に立ち向かう姿です。

赤十字の基本原則

赤十字には7つの基本原則があります。世界中の赤十字の人達、信じている宗教も生活習慣も生まれ育った環境も違う。その人達が一つの理念に向かって行動するならば、きちんとした行動基準・原則が必要になります。それがこの7つです。①人道は赤十字の目的そのものです。残りの6つ、②公平③中立④独立⑤奉仕⑥単一⑦世界性、は人道を達成するために必要な原則です。

赤十字で仕事をする、ボランティア活動をするとき、基本原則は1つの基準です。もし活動が基本原則から少し外れるような内容ならば、それは赤十字の仕事や活動ではありません。世界中でどんな人がどんな場所でもどんな活動してもおれないで同じ方向に進めるのは、この基本原則がしっかりとあり、多くの人にしっかりと理解をされて、現場で使われているからです。

次が「公平」です、公平の原則を理解できると、いろんな活動が赤十字らしくなってきました。公平と平等の違い、説明できますか。例えば2本の水と2人がいます。水を平等に分けるならば一人に1本ずつですかね。では2本の水を公平に分けたらどうなるか、また違う結果が出てきます。

公平に分けるため私は現場に入っていく、今のど聞いてますか？と聞く。すると一人は、さっきコーヒータくさん飲んだんで今トイレに行きたいです、と言います。大変ですねじゃあトイレに行ってください。そしてもう一人に、のど渴いていますか？いや午前中忙しくて給食も食べられず水も飲めなくて、のどがカラカラです、と。それ

は大変でしたね、ではカラカラの人に2本ともどうぞ。これが公平に分けるということ。

違いがわかりますか。平等というのは前提条件がない。男性か女性か、若いかそうでないか、日本人か外国人かも全然関係ない。二人いて、2本あるから1本ずつ差し上げたのが平等。

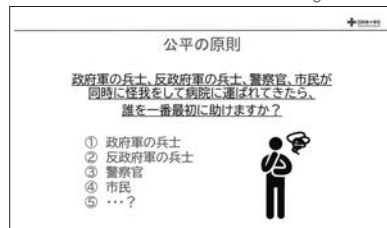
公平も前提の部分は一緒。

でも、現場に入っちゃんとアセスメントをやった上で、こちらのニーズが高いことをしっかりと聞き取り、一番先に支援が必要な人に対して優先的に支援をする。この行動があるかないかの違いです。

被災地で支援物資を提供する時、何も考えず平等に配ったら、家も全然壊れてない人達に対して支援物資を配るなども起こります。でも一番急ぐのは家が被害を受けて、ライフラインが途絶えて一番困っている人達に対して先に支援を届けることです。私達はまず公平な支援を心掛けます。

平等と公平は似ているようですが全然違う。決定的に大事なことです。現場に入っていくアセスメントをやり、どんな人が一番困っているのかをしっかりと聞き、理解をした上で、その人から先に支援する。この順番があるということ。苦痛の度合いによって最も急を要する苦しみを真っ先に取り扱う、これが赤十字の本来の姿なのです。

それから中立、すべての人の信頼を得るために、常に赤十字は中立の立場を維持します。誰かと誰かが戦っている、その間で何もしない中立もあります。赤十字はなるべく間にあっていき、まあまあという積極的な意味の中立、もちろん消



極的な意味の中立も両方しますが、なるべく政治的軍事的な中立をきちんと保ちながら、いかなる場合でも現場に入って、困っている人に支援ができるようにするために中立を維持します。

赤十字が中立を保つことは、現場に入るために本当に大切なことです。例えば赤十字はウクライナ支援とは決して言わず、ウクライナ人道危機支援と言います。赤十字はウクライナだけを支援するのではなく、ウクライナでの人道危機の発生によって困っている人達全てを支援対象にします。

その中でも最も急を要する人達から助ける。それはウクライナ人だけではなく、ウクライナの国内、あるいは周辺国にいる外国の人達、あるいはロシア系の人達かもしれない。そこにも赤十字は中立をきちんと保って、普段から両方の側にアクセスできるように、中立にしっかりと気を遣って行動をしています。

次は「独立」です。これは政府からの独立、つまり政府からお金をもらわないということです。一番困っている人を一番に助けたい、その活動の資金を国に頼っていると、いざという時に国の言うことを聞かなくてはいけなくなる。つまり我々が一番助けたいと思っている人たちにアクセスできなくなるリスクがあります。それを防ぐために赤十字は独立を可能な限り維持します。なので私たち日本赤十字社の活動の原資となるお金は、国からではなく個人、一般企業の皆様からの寄付によるお金に頼っているのです。

赤十字とJRC

人道を達成するために赤十字はニーズに気づくところからスタートします。現場に入って、そしてニーズに気づく、それをどうすればいいのか考える、せっかくなので考えてのだから、しっかりと実行に移して続けていく、ひとりでするよりは

みんなでする。あれ、だんだん赤十字の人道活動を説明していたら、青少年赤十字で聞いたことが登場してきました。

人道とは命を守る、健康を守ると言いましたが、別の言い方をすると、人として大切なこと、それは優しい心とか思いやりの心、平和を愛する心が広がること。日常生活の中に人道が広がっていくと、多くの人の理解・共感が得られ、活動が広がっていくと赤十字は信じているのです。

人道の敵

人道が広がるために立ち向かわなくてはならない敵が4つあります。まず「利己心」、自分勝手な心、自分さえよければ他人なんてどうでもいいと思っていれば、誰がどんな事に困っているかなんて気づきようがない。まずはこれに打ち勝たなくてはならない。でもこれは割と簡単です。

しかし「無関心」は結構チャレンジングです。しっかりと意識しないとこの無関心を克服することは難しい。今世界でどんなことが起こっているのか、どんな人たちが困っているのかに関心を持たなければ、どれだけ見聞きしても右から左に抜けていきます。今日の横綱どうでしたか、相撲に関心がある人は、横綱が両方負けて大変や、と言えるでしょうが、相撲に関心がなければそんなことすら知らない。どれだけ関心を持つことが出来るか、無関心を克服するのはとても簡単なようで実は難しい。まずここを意識したいと思います。

それから「認識不足」、正しく物事の認識ができなければ、どんな人がどんなことに困っているのかがしっかりと理解できなくなるので、これにも立ち向かっていきたい。

そして「想像力の欠如」、自分ならばどんな支援をしてほしいか、どんなことを言ってほしいか、あるいは言ってほしくないのか、そういう想像力

を働かせられるか、これがしっかりとできれば人道に一步も二歩も近づくことができると思います。

自分本位の善意の押しつけみたいになると意味がないですね。食糧難で苦しんでいるからお米を食べない人達にお米をドンと渡すのと一緒です。その人達が普段どんなものを主食としていて、どんなものが食べられて、どんなものが食べられないのかという認識と想像力がちゃんと働いて、それに基づいたアセスメントが行われていれば、しっかりと必要な支援ができることになります。

この人道の敵にはしっかりと立ち向かっていきたいと思っています。無関心や想像力の欠如というのは、学校生活の中でも本当に意識をしていきたいものの一つではないかと思っています。

人道教育とJRC

赤十字の目指す人道、それは「優しさや思いやりの心」、これを引き出し育てる、これが青少年赤十字とびったり合致してきます。赤十字の人道支援活動と青少年赤十字との共通点は、命と健康を守る、当たり前のことが大切なのだというメッセージ、自分の命と健康はまず自分で守る、家族や友人の命と健康を共に守る、そして周囲の人達の命と健康を互いに守る。これを児童生徒の視点で、自分達にできることってなんだろう、というテーマに結びつけると、より効果的に広がるのではないかと思います。

まず問題や課題を自分事として捉え、人道の敵にしっかりと立ち向かう。関心を持つことがまずは気づきのスタートです。それから利己心を克服し、想像力をもって、もし自分がこの人なら何をしたいのか、して欲しくないのか、そう考えていく。青少年赤十字の態度目標である「気づき・考え・実行する」をしっかりと意識を進めていくと自ずと答えが見えてくる。

正解のない問題に立ち向かう力は難しいです。しかし今の世の中は物事を白か黒か、判断できることはほとんど何もない。大方がグレーですね、黒に近いグレー、白に近いグレー。そういう正解がないものに對して一人ひとりが何に気づいて、どう考えて、そこに立ち向かっていくのか、それがとても大切になってくるのではないか。そのために必要な力は世界に目を向けて問題を発見する力、つまり自分の生活に置き換えてみるができるかどうか問われてくるのではないかと思っています。

問題解決の手法と青少年赤十字

- 問題や課題を自分事としてとらえることが出発点
- そして集団や自己をよりよくするための解決方法を考え実践する
- そのためには、「人道の敵」に立ち向かうことが重要
- 利己心の克服、無関心からの脱却
- 想像力をもって、「もし自分がこの人なら、何をしたいのか、何をしてほしいのか、何を言ってほしいのか、何を言ってほしくないのか」などを考える

青少年赤十字活動の態度目標
「気づき」「考え」「実行する」

正解のない問題にも、みんなで力を合わせれば多くのことが早くできること、青少年赤十字が提供できるプログラム・コンテンツの中で、少しでも味わってもらえるといいなと思います。

JRCをふりかへに

世界中で人道支援のために行われている内容を先生方がSDGsの展開や社会科や国語科などの普段の授業の中で使ってみる。その展開の中に少しずつ、ふりかけみたいにして混ぜ込んでいくことで、子どもたちにとっても意味のある重みのある授業の展開になるのではと思っています。

何も赤十字のことをやってくださいということではなく、うまく使っていたかどうかで、よりうまい味のある展開になるのではないかと考えています。ありがとうございました。

※講演全文、スライド(PDF)を希望者に提供します。jrc@toyama-jrc.or.jpに「講演録希望」学校名・氏名を記載し送信してください。

第2部・実践発表

「児童の主体性を育む教育活動」

富山市立広田小学校 校長 田村 千佳子

広田小学校では、児童の主体性を育むことをテーマに、児童会活動や創校150周年記念行事、総合的な学習などを通して、児童が自ら考え、協働し、最後までやり遂げる経験を重ねた。特に記念集会の企画運営や6年生による「ライオン・キング」の劇づくりでは、役割分担や舞台装置の製作、動画を用いた振り返りなどに主体的に取り組む、達成感と自己肯定感を高めた。さらにプログラミングクラブによるゲームセンター開設など、互いの活動を認め合う場づくりも進んだ。一方で、多人数活動では個々の思いを十分に把握できない課題もあり、今後は一人一人の内面に寄り添った見取りが求められる。

「思いやりの心をもち、進んで行動する子供の育成」

高岡市立下関小学校 教諭 藤長 拓巳

下関小学校では、「思いやりの心をもち、進んで行動する子」の育成をめざし、挨拶運動や入学を祝う交流活動、親子清掃、縦割り班のファミリー活動などを通して異学年の関わりを深めた。児童会が中心となり、毎朝の挨拶や各学級への訪問活動を継続し、学校全体に明るい雰囲気広がった。また、総合学習では3年生が地域のホウレンソウ栽培に取り組み、地域の方と協力して収穫までやり遂げた。見守り隊への感謝の集いや、生き物の飼育・花壇整備を通した「命を大切にすること」の育成にも努めた。一連の活動により、主体性と他者への思いやりが育つ姿が見られた。

「仲間や地域の人々との関わりを通して、
自分にできることを考え、
行動する生徒の育成を目指して」

滑川市立早月中学校 教諭 松崎 遥南

早月中学校では、仲間や地域の人との関わりを通じて、自分にできることを考え行動できる生徒の育成を目指した。ボランティア清掃「プチボラ」では、生徒会を中心に月1回、生徒が自分のペースで学校環境美化に参加。高齢者施設「なごみ苑」の運動会・納涼祭では、競技補助や車椅子介助などを行い、思いやりの心を育んだ。挨拶駅伝や手話を交えた挨拶運動、ライフスキルトレーニングの導入により、挨拶を軸とした温かい学校文化づくりも進んだ。生徒会活動を中心に「自主・自律」の意識が高まり、誰かのために行動できる生徒の成長が見られた。

「生徒会や部活動でボランティア活動を通して、生徒の『気づき・考え・実行する』態度を育てる」
射水市立射北中学校 教諭 飯野 雅也

射北中学校では、「気づき・考え・実行する」姿勢の育成を目標に、ボランティア精神を基盤とした多様な活動を展開した。毎月25日の「ニコニコの日」にはアルミ缶やペットボトル回収を行い、環境整備と募金活動を両立。校内では日々の良い行いを可視化する「一日一善の木」や、自分で目標を立て実践する「KKJ大作戦」に取り組み、主体的行動を促した。また、高齢者施設訪問や花壇整備、多言語で地域紹介を行うポスターづくりなど、地域とつながる活動も充実した。多様な国籍の生徒にも配慮した取組により、互いを理解し支え合う校風づくりが進んだ。

青少年赤十字研究会に参加して

〈令和7年8月6日(水)に「令和7年度青少年赤十字研究会」が日本赤十字社本社にて開催されました。〉



東部教育事務所
主任指導主事 石倉 博美

本研究会の講義の中で、青少年赤十字（以下JRC）と学習指導要領のつながりを知ることができました。例えば、学習指導要領前文の「社会との連携及び協働によりその実現を図っていく」という、社会に開かれた教育課程の実現が重要」という部分。そして、JRCの態度目標「気づき、考え、実行する」は、学習指導要領の目指す「生きる力」の育成とも共通しています。

また、JRCの教材は、防災教育、安全教育、福祉教育等に直結しています。その中で、防災教育は、「自分で判断して自分の命を守る」から一歩進めて、「守った命で、他の人を助ける人になる」という目標を掲げているのが特徴です。教材「まもるいのち ひろめるほうさい」は、災害時の映像、対象年齢に応じた解説、指導案、ワークシート等、内容が充実しています。いつ、どこで起こるか分からない災害に対し、学校教育でできる防災教育を実践し、児童生徒の「気付き、考え、実行する力」を育てることは大変重要であると感じました。

現在、各学校では、インクルーシブ教育の推進、地域との連携等、様々な課題に取り組んでいます。本研究会の学びを生かしてJRCの教材活用の可能性を探り、児童生徒の成長につなげることができるよう、各学校での実践を支援していきたいと考えます。

リーダーシップ・トレーニング・センター 指導者養成講習会に参加して

〈令和7年5月30日(金)～6月1日(日)に「令和7年度青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター指導者養成講習会」が国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催されました。〉



射水市立射北中学校
教諭 石井 龍之介

本講習会参加前は、指導者養成講習会に対してどこか構えていましたが、指導者の方々の工夫を凝らした講義や参加者同士の交流を通して参加してよかったと感じています。

講義では、青少年赤十字をなぜ学ぶのか、考えがなぜ必要なのかといった基本的なことから、レクリエーションを用いた相互理解やリーダーシップとは何かについてまで幅広く学びました。

また、教材「まもるいのち ひろめるほうさい」を使った防災教育も体験しました。この教材は、生徒が主体的に取り組みながら、知識や行動力を身に付けられるよう工夫されており、他者への思いやりや優しさ、命の大切さについても理解を深められるプログラムになっています。他にも、各県での取組や学校の様子など、普段聞くことのできない情報を聞くことができ、貴重な経験となりました。

今回、青少年赤十字の活動が教育現場で行われている活動につながっていることも学びました。青少年赤十字の活動を生かしながら、生徒らの気づき力や考える力、実行する力をさらに育んでいきたいです。

今後は、JRCにあまり関わったことのない先生方にもぜひ参加していただき、視野を広げ、よりよい実践につなげてほしいと思います。

リーダーシップ・ トレーニング・センター

県内の青少年赤十字加盟校より小・中・高等学校別に参加者を募り、青少年赤十字のリーダー養成を目的として、毎年夏休みに開催しています。今年度は、8月6日(水)～7日(木)に、富山県砺波青少年自然の家にて開催し、県内の小・中・高校生58名が参加しました。防災セミナーや救急法、フールドワーク、手話などの様々なプログラムに取り組み、新しく出会った仲間とともにリーダーシップを学びました。



リーダーシップ・ トレーニング・センター ワークショップ集より

〈小学6年生 I・Kさん〉

ポスター作りのときのように意見を言ったり、話合ったりした経験を学校の行事や委員会活動に生かしていきたいです。

トレセンで学んだV・Sや救急法、手話をいつもの自分の生活に結び付けて「気づき、考え、実行する」を大事に活動したいです。みんなが動き始めてから動くのではなく、自分から動き始められるようにしたいです。いつもはあまり時間を見て生活していなかったけど、トレセンを通して次の活動時間を知っておくことが大事だと気付いたの



時間を意識して行動したいです。

〈小学5年生 K・Hさん〉

トレセンで学んで学校生活につなげたいことはリーダーシップです。元々、前に立つのが苦手だったので、トレセンに来てみてリーダーのプレッシャーなどもあったけど、みんなの役に立てて気持ち良かったです。

この経験を生かし、学校生活では生活・代表委員会などで、なにか生活のイベントで赤十字のことについて教えたり、グループ活動ではリーダーになって話し合いの時などにみんなをまとめたりしたいです。

〈中学2年生 Y・Tさん〉

僕は後期に生徒会長になるのですが、あいさつ運動を実施しようと思っています。そこで、トレセンで学んだこととあいさつ運動を合わせて、ただ朝に玄関であいさつをするのではなく、朝以外の場面でもあいさつがあふれるあいさつ運動にしようと思います。

そのために朝、玄関であいさつをするだけでなく、人と出会ったとき明るい顔で明るいあいさつを交わせばよいと思います。そうすることで僕の公約である、みんなが行きたくなるような明るい学校を実現できると思います。

〈中学2年生 M・Kさん〉

普段学校で過ごしていると「ここが不便だな」「もっとこうなったらいいのに」と思うところがあるので、そのようなところを変えていきたいと思っています。誰かが困っているのであれば、自分できちんと考え、実行したいと思いました。また、生徒会の活動などに関わることがあれば、生徒会か

らの視点だけではなく、生徒側からの視点でも考えてみる大切だと思ったので、それを行動にうつしていきたいです。

〈中学1年生 R・Nさん〉

僕は今回レストランで食器をかえす時に食器が山積みになって倒れそうになっているのを見ました。僕のクラスでも給食の片づけをしている時に似たような事がありました。そこで僕はかごにしろしをつけてしろしから上は重ねないでねというようにするのはどうかと考えました。実践できるかどうかは分からないけど今回の経験を学校で使えたらいいなと思いました。



〈中学2年生 I・Tさん〉

V・Sの講義では簡単なこと、小さなことでもV・Sをどんどん広げていけば、住みやすい環境がつかれるということを学びました。これからは「本当のリーダーとはどのような存在なのか」常に考えながら行動していこうと思います。また、今回のトレセンで考えたV・Sは私一人で実践してみました。これからは私だけではなく、周りの人にも声をかけ、V・Sの輪・思いやりの輪を広げていきます。

〈高校2年生 Y・Mさん〉

避難所体験ゲームをもっと多くの人に体験してほしいと思いました。避難所体験ゲームは、実際に災害が起きた後の避難者の異なる状況(家族構成、

家の状況、年齢、体調、住んでいる地域）が多くあることが分かります。

避難所体験ゲームをするにあたって、それぞれの避難者の状況に合った環境を制限された避難所内で作らなければなりません。参加者の様子を見てみると、避難者数の多さや情報の多さに混乱して、避難所の空間をうまく活用できず苦戦していました。ゲームが終わった後の振り返りで、「この人をこうすれば良かった。」など多くの気づきがあり、避難所運営の難しさを知ることが出来ました。理解してくれる人が増えて、やってよかったと思います。



令和8年度 トレセン開催の お知らせ

令和8年度は8月5日(水)から6日(木)までの日程で、富山県砺波青少年自然の家を会場に開催する予定です。開催案内は、5月中旬に加盟校にお知らせします。たくさんの学校から児童・生徒の参加並びに先生方のご協力をお待ちしています。

青少年赤十字国際交流事業

青少年赤十字の実践目標の一つである『国際理解・親善』を図るため、2年ごとにアジア・大洋州などの赤十字姉妹社からメンバー2名ずつ招聘しています。

モンゴルメンバー

These five days in Toyama were truly unforgettable and full of learning, experiences, and happiness. Throughout the trip, I gained a deeper understanding of the activities of the Japanese Red Cross, the spirit of humanity, and the power of cooperation. Seeing the active participation of citizens, the creativity of young people, the kindness of my host family, and the aftermath of the earthquake in Wajima and Suzu made me realize the importance of helping others and being responsible. The people of Toyama were incredibly kind, respectful, and welcoming. From the Red Cross members and volunteers to my host family and the students we met, everyone treated us with warmth and care. Their discipline, teamwork, and genuine smiles inspired me deeply. This journey was not just a simple visit it was a valuable lesson about life, compassion, and humanity. As a member of the Red Cross, I am now more inspired to contribute to my community, continue doing good deeds, and bring positive change wherever I can. Thank you very much everyone In Toyama.



Best regards
M. Tselmuun(写真中央)

Sincerely
M. Munkhbaatar(Baatra)(同右)

With sincere appreciation,
S. Ganzorig(同左)

今回は20の国と地域から40名のユースメンバーが来日し、その内モンゴルからのメンバー2名とモンゴル赤十字社のユース担当職員併せて3名(ウランバートル在住の大学生バートルさん(18歳)、高校生ツェルムニさん(15歳)、ガンゾさん(26歳))が10月25日から10月30日までの6日間、富山県を訪問しました。

訪問中、青少年赤十字加盟校の射水市射北中学

校では2年生のクラスで「赤十字防災セミナー」を生徒と一緒に受講したり、高岡向陵高校ではeスポーツ部、相撲部、レスリング部で日本の部活動を体験したりしました。

また、能登半島地震の爪痕が残る伏木地区や氷見市の視察、そして石川県輪島市や珠洲市を訪問し、災害対応に当たった各市役所の職員から発災当時から今に至る市の様子を聞くことができました。



日本メンバー
高岡向陵高等学校
1年 金田 香織

私は青少年赤十字の国際交流や学校訪問を通して、国際交流の意義と、仲間と協力することの大切さを学びました。

モンゴルの高校生と英語で直接会話をしたり、相手の国や文化、そしてお互いの赤十字の活動について話したりする時間はとても楽しく、国際交流への興味がさらに深まりました。「伝えたい」という気持ちがあれば、言葉が完璧でなくても工夫しながらコミュニケーションが取れることを実感しました。さらに、自分たちの学校を紹介したり、eスポーツや相撲、レスリングを一緒に体験したりしたことも、心に残る思い出になりました。

モンゴル赤十字の話聞いて、災害はいっ起きるか分からないからこそ、「今を楽しみながら仲間を増やし、つながり(輪)を広げよう」として「という考え方が印象に残りました。私も、普段からトレセンなどで仲間意識を高めて、いざという時に協力して行動できる人になりたいと思います。」

令和8年度JRC活動計画

3月	1月	8月	7月	6月	5月
高校生対象 スタディ・センター 高等学校青少年赤十字活動の中心となるリーダーの養成を図ります。	青少年赤十字活動研究会（富山市） 教職員を対象に広く青少年赤十字活動を学び、普及することを目的とした研究会です。	リーダーシップ・トレーニング・センター（砺波市） 県下小・中・高等学校の青少年赤十字メンバーが集い、共同で生活する体験学習です。「気づき、考え、実行する」を主テーマに参加者が自ら目標を設定し実践していく活動体験型プログラムです。 指導主事対象 青少年赤十字研究会（日赤本社）	全国指導者協議会総会（日赤本社） 全国賛助奉仕団協議会（日赤本社）	第3ブロック指導者協議会会長及び支部担当者研究会（福井県）	指導者協議会 理事会・総会（日赤県支部） 令和8年度 活動実践校指定 トレーニング・センター指導者養成講習会（東京都）

青少年赤十字への加盟について

青少年赤十字は、学校教育の場に組織され、教員が指導者となって児童・生徒とともに活動に取り組みます。

青少年赤十字に加盟されると、定期刊行物や教材・教材の無償提供、小・中・高等学校の青少年赤十字メンバー対象のリーダーシップ・トレーニング・センターに関する案内等があります。「これをしなければならぬ」といった義務のようなものではありません。地域や世界の人々の平和や福祉に貢献するような活動を学校の裁量で自由に行うことができます。なお、加盟登録する上で、費用負担はありません。

各学校の教育効果を高めるために、ぜひ青少年赤十字をご活用ください。

令和7年度

新規加盟校

富山市立速星小学校

校長 新井 啓之

委員会加盟



発行・編集

富山県青少年赤十字
指導者協議会
日本赤十字社富山県支部

〒930-0821 富山市飯野26-1
TEL076-451-7878 FAX076-451-6872
<https://www.jrc.or.jp/chapter/toyama>

青少年赤十字加盟校状況（令和8年3月31日現在）

校種	校数	メンバー数
幼稚園・保育園	13園	1,111名
小学校	136校	26,919名
中学校	73校	21,818名
義務教育学校	4校	410名
高等学校	16校	3,186名
特別支援学校	5校	180名
計	247校	53,624名